

事務事業評価

平成 29 年度

担当課

社会教育課

基本事項	事務事業名	自主文化事業					整理番号	2303		
	根拠法令等						実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
	関連する市勢振興計画の基本計画	章	第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	予算科目	10款 4項 1目			<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規		
		節	第5節 文化活動の充実	事業区分	市民サービス事業					
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	直に観る機会が少ない芸術性の高い公演を行って欲しいという市民の要望がある。					計画期間	始期	平成	年度から
								終期	平成	年度まで
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	市民に優れた文化・芸術に接する機会を提供し、地域文化の活性化を図る。								
	目的達成のための 具体的手段・方法	限られた予算の中で文化的・芸術的に優れた公演を選定し、より多くの市民に観てもらえるよう周知をはかる。また、料金についても、市民が手軽に参加できるような設定に配慮する。								
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	27年度	28年度	29年度			
		①島原文化会館実施公演 H27: BIGINコンサート H28:劇団前進座公演「怒る富士」 H29: 草野仁講演会		目標 入場者数	840	840	840			
		目標: 1,200席 × 70% = 840人の入場者数		実績 入場者数	1200	640				
		達成率 %	142.9	76.2	0.0					
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	②有明総合文化会館実施公演 H27: 和魂楽匠コンサート H28: ひよっこりひょうたん島オンステージ H29: 未来の音楽授業! アキラ塾		目標 入場者数	490	350	490				
	目標: 700席 × 70% = 490人の入場者数 (H28は500席定員、500 × 70% = 350人)		実績 入場者数	367	530					
			達成率 %	74.9	151.4	0.0				
	① チラシ・ポスター等の配布		目標							
		実績								
② 広報掲載やFM番組出演		目標								
		実績								
事業費等の推移	年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度		
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画		
	①直接事業費(千円)		16,981	12,227	8,854	4,969	6,276	6,276		
	財源内訳	国 県 支 出 金								
		地 方 債								
		そ の 他	6,690	3,441	891	246	1,250	1,250		
		一 般 財 源	10,291	8,786	7,963	4,723	5,026	5,026		
	②従事職員給与費 b1 × b2		1,082	1,098	1,116	1,123	1,132	1,132		
	従事職員数(人) b1		0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15		
	職員平均人件費 b2		7,213	7,317	7,438	7,484	7,546	7,546		
事業費合計 ① + ②		18,063	13,325	9,970	6,092	7,408	7,408			

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 文化会館の指定管理者等での実施を検討する必要あり。(子ども狂言については別途検討の必要あり)	B
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 入場者数を伸ばすために、事業選定時に対象者を十分考慮する必要あり。	B
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか（成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成）	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 可能な限り広報活動を行ったが、入場者数の増加に繋がってない場合があった	B
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 対象となる層を核とした団体とのタイアップなど、事業選定の段階から参加者増に向けた対応が必要である	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか（活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成）	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 入場者数を伸ばすことが課題となっている。	B
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 公演の質の保持や広報による十分な周知を行うために、現行の費用が必要である。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 広報面での連携を高める必要あり。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 受益者の負担割合はやや低いが、入場料の価格を高めに設定すると、入場者数が伸びない。	B
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	B
判定評点平均（3点満点）			2.20
A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			

◎ 総合自己評価（所管部署）

評価結果	<input type="radio"/> A 継続実施（特段の見直しは行わない） <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input checked="" type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止（隔年実施などへの変更） <input type="radio"/> D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由	・会館の指定管理者でも自主文化事業が行われるなど、差別化すべきかあるいは一本化すべきかなどの検討の余地がある。
	今後の課題及び改善策、見直しの状況 （実施上の課題等） 本市には、文化事業を専門的に実施できる施設や、公演を本市に招へいする団体等があるので、事業の選定や広報面など、施設や各種団体とタイアップして事業の効率を高める必要がある。		
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。			

【2次評価】

総合判定	B3見直しのうえで実施 → 事業内容の改善
備考	公演を実施し、入場者数もある程度実績があるため、地域文化の活性化に一定の効果があっているものと思われる。公演内容や実施回数について指定管理者の自主事業などと調整する余地がある。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input checked="" type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	△ 4,560 (千円)